



第 18 回 リマ国際図書展の入口正面



ペルー共和国

República del Perú Piruw Republika

文化事業の現場に見たペルー —文化外交の最前線

黒田 なおみ

ペルーには世界で三番目に多い 10 万人を超える日系人口があり、伝統的に日本文化や日本語の普及活動が活発であることに加え、アンデスの多様な文化の魅力に魅せられた日本人による芸術文化及び学問の二国間交流も盛んである。限られたリソースで効果的な文化交流事業を行うためには、こうした既存の文化交流の担い手との連携・協力が不可欠である。本稿では、近年のペルーにおける文化事業を取り巻く環境、当館の文化外交上の重要なパートナーであるペルー日系人協会（Asociación Peruano Japonesa：APJ）が果たした役割や今後の展望についてご紹介したい。近年の文化事業を取り巻く環境

ペルーに着任したのは今から 4 年前だが、リマでは意外にもビッグな外国人歌手のコンサートが多いのには驚いた。ポール・マッカートニー、ジャスティン・ビーバー、スティング、レディ・ガガ、エルトン・ジョン等々。2007 年にショーイベントへの課税が緩和され、好景気による中間層の購買力の高まりも相まって、海外からのアーティスト・ラッシュが生じているらしい。

音楽著作権の管理団体 APDAYC の統計によれば、近年の音楽イベントにおける著作権使用料収入は、ここ数年前年の 2 割

増を記録している。それだけイベント数が増加しているのであろう。新聞報道によれば、新参者のプロモーターが次々と参入し海外アーティストのギャラのインフレを招いているらしい。興行主のノウハウ不足で広報・宣伝が足りず、企画の割に集客が振るわない残念な公演も散見される。

近年のリマでは、文化イベントの増加に呼応するように施設整備の動きもみられる。2010 年にリマ市立劇場が火災跡を修復し改装オープン、12 年には劇場としては国内最大級の約 1,500 人収容可能な国立大劇場が完成した。

文化施設建設の動きがある一方で、幕張メッセのような巨大な見本市会場が未だにリマにない点は、大型イベント関係者にとっては深刻な問題である。現在、万単位の入場者規模のイベントにおいては、一般の公園に巨大なテントを張って会場を臨時に設置することが一般的である。雨が降らないリマだからこそテント会場でもなんとか凌げるといえる。大使館がブース参加した最近の大型イベント例として、毎年恒例で 7 月中旬から 2 週間開催されるリマ国際図書展（17 日間で 45 万人来場）と 9 月上旬の 10 日間開催される中南米で最大規模の食の祭典“Mistura”（10 日

間で集客 50 万人）がある。どちらもリマ市内の公営公園でイベントを実施してきたが、ブースを設けるため、池や噴水の水を抜き、公園の植木は使い勝手のいいように切り倒され、芝生が傷めつけられる。公園が荒れるため、イベントの度に環境保護団体が反対運動を展開する。駐車場も整備されておらず、入退場の入り口も狭いため、入場するのに大変長い列ができる。大規模なイベントができる駐車場の設置された巨大施設がリマ市内にせめて一つでもないと、今後、国際的なイベントを実施する上で限界があると思われる。

日本ペルー 140 周年事業とペルー日系人協会

さて、折しも 2013 年は日本とペルーが国交を結んでから 140 周年にあたることから、日秘和親貿易航海仮条約署名日の 8 月 21 日を中心に 8 月から 11 月に日本大使館と APJ は複数の記念文化事業を共催した。そこでペルー国民に伝えたかったメッセージは日秘友好関係が 140 年の長きにわたるといふ事実で、ペルーにとって既に当たり前の存在になっている日本との友好関係を再認識してもらふ絶好の機会であった。

まず、内容を企画するにあたって、多数の文化事業が競合するリ



2013 年は海岸へ会場を移した Mistura
提供：原田慶子ーリマ在住



日秘文化会館



33カ国リレー通信

ペルー共和国

República del Perú
Piruw Republika

マにおいて、いかに注目を集めるかに腐心した。日本の文化のみを紹介する一方通行の事業では、両国の友好関係を象徴することにならないと考え、ペルーで CD 売上 NO 1 と評判のアンデス伝統楽器奏者ルチョ・ケケサーナを招き、邦楽 & 日本舞踊プロジェクト「和リーグ」との共演を演出し、会場には両国政府が共催するにふさわしい新設の国立大劇場を選んだ。国立大劇場で公演を行うこと自体がリマでは文化事業の一つのステータスであり、ペルーの政府要人、外交団、文化人への動員力はアップした。加えて数日後にはラ・ウニオン総合運動場の体育施設に仮設ステージを設け、日系社会及び一般市民を対象に 3,000 人規模の野外コンサートも企画した。どちらもペルーの異なるテレビ局に独占収録にあたらせ、公演の様子を年末にかけて数回にわたり全国放送し、両国の友好関係のメッセージをルチョ・ケケサーナの巧みなトークに乗せてお茶の間に届けることに成功した。

これらの試みを実現するには、当然資金力、ノウハウ、マンパワーが必要であったが、その点で重要な役割を果たしたのが APJ だった。APJ はペルー在住の日本人及び日系ペルー人並びにその機関を代表する非営利組織で、「日本の伝統的価値をペルーの日系社会及び一般社会に普及し、日秘の文化・学術・技術交流を推進し、両国の友好関係を強化する」ことを活動

目的の一つに掲げる。APJ が運営管理する日秘文化会館を拠点に年間を通して多くの日本紹介事業を実施するが、その APJ が周年事業を主導することで、広報宣伝や会場設営・運営面で経験豊かなスタッフに支えられ、強力な周年事業実施体制を確立することができた。特にペルーで活躍する約 30 社の日本企業・日系ペルー企業から多くの協賛を得ることができたのも、周年記念文化事業の趣旨に賛同いただけたことは勿論だが、ペルー政府、大使館及び APJ の協力実施体制に信頼を得られたところが大きかったのではないと思われる。

2014 年 1 月に 140 周年の締めくくりとして秋篠宮同妃両殿下がペルーを公式訪問され、記念式典が APJ の日秘劇場で開催された。このようにペルーと日本の交流の懸け橋として活躍する APJ は、対ペルー文化外交の主要アクターと位置付けられるが、その観点から、今後の両国文化交流の更なる促進のために、取り組むべき課題もある。

APJ が実施する数々の対日理解促進事業には、例年日系ペルー企業から資金的支援を得られているが、今後は多くのペルー駐在の日本企業とも事業を連携・実施していければ、交流事業はより効果的になると思う。また、APJ の事業は訴求対象が日系社会に偏りがちで閉鎖的との印象をもたれる側面もあるところ、例えばリマにおける大規模文化イベントに APJ としてブース参加する等して（先にあ

げたリマ国際図書展や Mistura 等は 2011 年以降参加経験あり）、訴求対象を一般社会に向けて拡大することも今後の二国間文化交流の一層の促進に効果的と考える。さらに、主要各国が当地に専門機関を設置して自国の文化普及に努めている中（中国は孔子学院、韓国は韓国国際交流財団または世宗学院、英国はブリティッシュ・カウンシル、ドイツはゲーテ・インスティテュートなど）、日本の文化交流を中核的に担う国際交流基金の海外拠点は残念ながら当地にはない。代わりに APJ がその役割を担っているのだが、独力で日本や第三国から良質の日本文化発信を行える文化人・専門家を招聘するノウハウがなく大使館がその調整役を担っているのが現状だ。今後は是非、国際交流基金と APJ が組織的に連携することにより、国際交流基金の拠点としての役割を APJ が担うことで、ペルーはもちろん、ひいては南米地域の日系社会による日本文化紹介事業を効果的に推進する国際文化交流体制が強化されることが期待される。

この場をお借りし、140 周年記念文化事業の成功裏の実施に貢献いただいた関係者の皆様に感謝するとともに、今後とも APJ を中核機関として盛りたてつつ両国の文化交流が一層促進されることを祈念したい。

（くろだ なおみ 在ペルー日本大使館一等書記官、現 国際連合日本政府代表部）